24時間の冒険

目を覚ましたら、猫になった！？

文&絵
Nora Wang

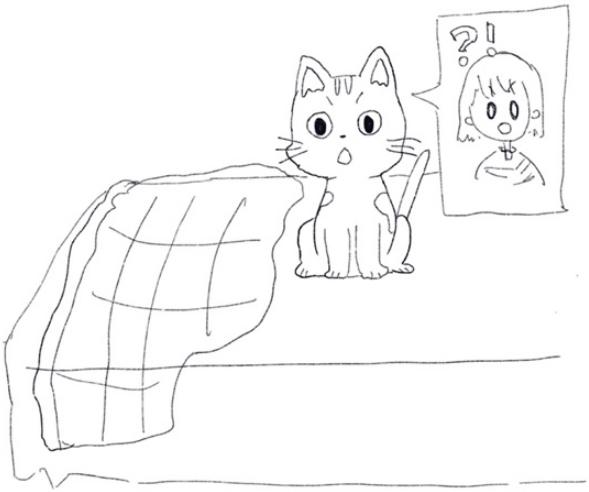
Level 4

JAPN3302 Advanced Japanese

Spring 2021

ある日、ルラちゃんは朝七時に目を覚ましたら、自分が猫に変わったことに気付いた。声を出したかったけれど、「ニャー」しか出せなかった。母ちゃんに助けてもらおうと考えていたルラちゃんは、猫の姿のまま部屋を出た。

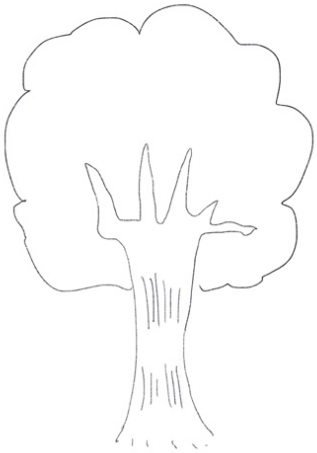
ところが、母ちゃんは娘が猫になったのに気づかなく、「あら、どっかの猫が入ってきたかしら」と言いながらルラを外に抱いて行った。



それで、うちに帰れないルラちゃんは、たまたま隣の高本さんに見つかった。高本さんはある会社の社長で、普段はいつも厳しそうな顔をしている。でも、猫に変わったルラちゃんに対して、「こっちにおいで」と優しく言いながら、美味しいソーセージをくれた。

「高本さんって、こんなやさしい人なんだ…知らなかった。」ルラちゃんはそう考えた。

八時に、ルラちゃんが突然、変な感じがした。体がどんどん熱くなって、視線も高くなっていた。気づいたら、猫から街に植わっている木になった。動けなかったルラちゃんは、街にずっと立っているしかなかった。でも、木になったおかげで、自分の前を通りかかった人々が観察できるようになった。例えば、電話をかけながら歩いている会社員、手を繋いで学校へ行く途中の小学生たち、木の下に止まって撮影し始めた写真家…皆、忙しくて、充実した生活をしているようだ。笑ったり、悩んだりするのも日常だ。ルラちゃんは普段、勉強が忙しすぎて、周りの人がどういう生活をしているか考えたことさえなかった。



九時に、ルラちゃんは自分がどんどん小さくなっている感じがしていた。なんか水に包まれて、体が水の流れに従って動いていた。周りに自由に泳いでいる魚がいた。もっと遠いところで、蛙がゲコゲコ鳴いていた。

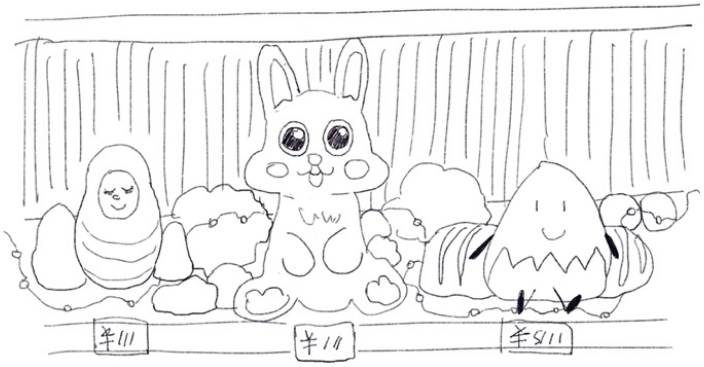
「私は、何になったんだろう…」ルラちゃんはそう考えた。その時、ある男の子の声が聞こえた。

「見て、ママ！川に何かある！ピンク色の！」

「あら、それは花びらだよ。風で散って、川に落ちた花びら。」

なるほど、親子の会話を聞いて、ルラちゃんは自分が今、川に漂っている花びらだとわかった。晴れた空を見て、心も穏やかになってきた。いつの間にか、また一時間が過ぎた。

十時に、ルラちゃんは、ぱっと、おもちゃの店に現れた。ぬいぐるみに変わった。店に入った子供も、大人も、みんなぬいぐるみが好きだ。「えっ、これ、かわいい！」「どれを選べばいいのかな…」「やっぱ、買おうかな…」などと、話が次から次へと耳に入った。



ふっと、ルラちゃんは人に抱き上げられた。

「あなた、見て、このウサギはかわいいでしょ。」女の人の声だった。

「そうだね。あなたにとても似合う。」今回は、男の人の声だった。

顔をよく見たら、二人の老夫婦だった。髪は真っ白で、顔に笑みをたたえていた。彼らはルラちゃんを買って、店を出た。お年寄りだから、ゆっくり歩いていた。お婆さんはルラちゃんを抱いて、お爺さんは、お婆さんの手を繋いでいた。二人はうちに帰る途中で、ずっと話たり、ニコニコ笑ったりしていたから、ルラちゃんもこの愉快な雰囲気に浸った。ぬいぐるみなので表情を変えられないけれど、ルラちゃんは楽しくて、心の中で笑った。

「猫に変わっても、木に変わっても、おもちゃに変わっても、実は全部面白い体験だったね。角度を変えたら、見えることも違う。」ルラちゃんはそう考えた。いつの間にか、彼女は次の変身を期待するようになった。

「次は、何に変わるかな？」

十一時に、ルラちゃんは思った通り、もう一度、変身した。今回は、花の周りをグルグル回っている蝶だった。

一時間ごとに、ルラちゃんは違う動物や物に変わって、町のいろんなところに現れた。十二時はピアノ、午後一時は絵本、午後二時はあり…大きくなったり、小さくなったり、動けるようになったり、動けなくなったりした。

知らないうちに、もう二十三時間も過ごした。翌日の朝六時になった瞬間、ちょうど、日が出た。そして、ルラちゃんは鳥に変わった。体が軽くなって、翼もあった。力を使って、町の上空へ飛んだ。

下を見ると、ルラちゃんがよく知っている町が見えた。ほんの少し前に、動物やものとして行った場所がほとんど見つかった。花がいっぱいある公園とその近くの川、玩具屋と両側に木が植えてある道、建物と自分が生活している家…ルラちゃんにとって、きれいな思い出がたくさんあるところだった。

空がどんどん明るくなってきた。それから、ますます、たくさんの人や車が見えてきた。また新しい一日が始まった。

七時に、ルラちゃんはベッドの上で目を覚ました。自分の手を見たら、猫の手じゃないと確信して、ほっとした。とうとう、変身が止まった。夢みたいな経験だった。ルラちゃんはそう思いながら、笑った。最初はちょっと怖かったけれど、変身のおかげで、普段、見えない景色をみた。町に住んでいる人々の楽しみや苦しみもわかった。